

うわじま 牛 鬼 うしおに

市立宇和島病院ホームページ <http://www.uwajima-mh.jp>

【病院機能評価を受けて】

病院機能評価受審統括 副院長兼診療部長 林 正俊

市立宇和島病院スタッフの皆さん、おめでとうございます。
昨年から皆さんと準備を進めて来て、今年1月28、29日に受審した病院機能評価 3rdG Ver1.1を無事合格したとの通知が5月31日に届きました。この合格は、スタッフみんなで勝ち取ったものです。みんなで祝いたいと思います。

今回で病院機能評価を受けるのは3回目になります。初回の機能評価受審は、10年前ちょうど病院改築や自治体合併などの大きな変革の時期に当たっていました。初めての受審ということで、大変な思いで準備をしたことを思い出します。10万冊を超える紙カルテ全てに背表紙をつけ、それに新しいID番号を符っていったのもその時でした。紙カルテから電子カルテへの移行のための前段階としてフルオーダリングに代えたのもその頃でした。今まで慣れ親しんできた仕組みを変えていくのは大変な作業です。それでも折角病院を新しく建て替えるのだから、この際ハードだけでなくソフトも新しいものにしようとの思いを皆で共有していたと思います。その結果、トイレが男女共用という古い建物であったにもかかわらず、職員皆の力で合格との評価を頂いたわけです。その後、現在の新しい病院が立ち上がり、診療を進めるに際しての様々なソフトがうまく稼働しています。



それから5年ごとに機能評価を受けて来て今回で3回目になりましたが、毎回求められる内容がレベルアップし、それに応える形で病院の内容もレベルアップしているのを実感しています。今回は初めてケアプロセスという新しい試みがなされ、実際の患者さんのカルテを見ながら入院前から退院に至るまでの様々な医療内容をチェックするというものでした。が、これも問題なく終わることができ、良い評価を頂くことができました。

医療は地域で生きていくためには欠かすことのできないものです。我々医療に携わる者は地域の住民の方々の健康を守り、生活を守るために、日夜懸命に働いています。市立宇和島病院は、南予だけでなく四国西南地域の基幹病院として、病に苦しむ人々の最後の砦として、誇りを持って仕事を進めなければなりません。

病院機能評価というのは、受審する側からすれば5年毎に膨大な時間をかけて準備しなければならない大きなイベントですが、逆に、目まぐるしい変化を遂げるこの時代に、我々が本来あるべき医療を確実に進めていることを第三者の目で見ても評価していただく良い機会でもあります。

今回の受審に関しては、圧倒的に短い準備期間であったにもかかわらず、適切に迅速に準備を進めることができました。我が市立宇和島病院のスタッフの皆さんは、いったん事あればみんなで協力し合って事に当たる強い結束力を持っています。今まで何度もそういった状況がありましたが、今回も皆さんのおかげで無事合格を勝ち取ることができました。有難うございました。そして、再度、おめでとうございます。



病院機能評価受審統括 林副院長(左)と事務統括 片山総務管理課長(右)

市立宇和島病院の 基本理念

- 一、信頼される病院
 - 一、思いやりのある病院
 - 一、やすらぎのある病院
 - 一、進化しつづける病院
 - 一、地域になくは
ならない病院
- をつくります。

市立宇和島病院の 基本方針

- 1、いつでも、どんな病気にも、高度医療を提供する病院をめざします。
- 2、患者様の権利を尊重し、愛情と対話をもってあたたかい医療を提供する病院をめざします。
- 3、快適な医療環境をととのえ、明るくうるおいのある病院をめざします。
- 4、高い技術を持ち、人間性豊かな医療人の育成につとめる病院をめざします。
- 5、医療・保健・福祉との連携を深め、地域で完結する医療に貢献する病院をめざします。

「きさいやネット」の功績が称えられ表彰を受けました。

院長 梶原 伸介

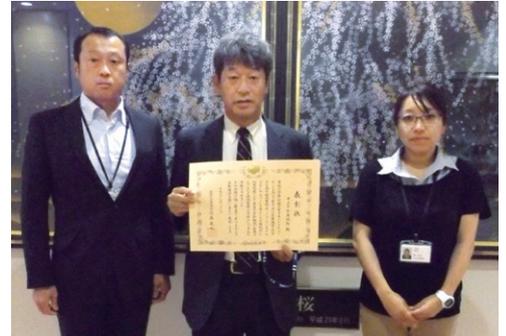
6月1日は「電波の日、情報通信月間」ということで毎年、情報通信行政に貢献した個人、団体が顕彰されているのですが、今年
は当市立宇和島病院が展開する「きさいやネット」が四国総合通信局長表彰を受けました。

当院が診療記録の電子カルテをインターネットを介して南予一円の医療機関と共有する南予地域連携ネットワークシステム
「きさいやネット」を導入し、その積極的な利用促進により患者さんの負担軽減
に成果を上げるなど地域医療の中核として多大な貢献を讃えられ、全日空ホテル
の式典上で表彰されました。

昨年より運用を開始した「きさいやネット」は1年を過ぎた4月末日で利用機
関、病院14、診療所23、計37施設に広がり、アクセス数は8823件となり、月間
1000件を超えるアクセス数となっています。また利用者のアンケート調査でも
満足度92.3%を誇り、周囲医療機関との連携にはなくてはならないツールになり
つつあるのではないかと思います。全国では地域医療再生基金等により
200を超えるネットワークシステムが構築され、愛媛でも6つのシステムが構築
されていますが、日本での草分け的存在の長崎の「あじさいネット」、島根の「ま
めネット」、旭川のあんしんたいせつネット」などは有効に利用されており、非常
に有名ですが、それ以外のシステムはまだ道半ばではないかと感じています。

そのなか「きさいやネット」がこれだけの実績を示すことが出来たのは、当院
の当地域での今までの歴史、役割だけでなく、連携室の役割が大きかったのでは
ないかと思います。最初はスモールスタートでキーとなる先生に十分納得、理
解してもらい、操作に習熟してもらい、それより口コミで広げてもらうことを考
え、また電話一本で診療所、病院に出向き、設定、操作の説明を行い、ある程度慣
れてきて連絡があればすぐ相手の施設を訪問し、問題を解決することを繰り返
してきたのが一番大きな要因だったと思われます。

今後もこのネットワークを大切に育て、患者さんの診療に役立つようにして
いきたいと思ひます。



写真は左から地域連携室 中係長、梶原院長、
地域連携室 森事務員



シリーズ 看護部だより

～1年を振り返って～



看護師 上田 優晟

私は整形外科・耳鼻科・眼科病棟の整形外科チームに配属となり1年が経ちました。入職当初は、看護師として勤務することに不安を抱いていた事を今でも覚えています。日々行われる回診の際には、処置の介助方法や必要物品の把握が十分できず、その度に先輩方から指導を受け、今では患者さまの状態に合わせた処置の準備などが行えるようになってきました。上手い出来ない事も多く落ち込む事もありますが先輩方の支えもあり、次に生かすことができるようになりました。また、日々の患者さまとの関わりの中で「いつもありがとう。頑張ってるね。」「あなたが担当で嬉しいわ。」などといった言葉をかけて頂いた際には、看護師になって良かったと思ひます。その言葉が日々の励みにもなっています。思いやりのある看護師が私の理想の看護師像です。多くの事を経験し学んだ事で、1年前とは違った今の自分があると思ひます。これからも思いやりを持って患者さまと接していきたいと思ひます。



看護師 松浦 紋子

8東病棟に配属され1年が経ちました。初めは、先輩方の働く様子を見て看護師の業務の多さに驚き、私に務まるか不安で仕方なかったのを覚えています。同期や先輩方に1年間支えられ、様々な指導を受け一人のできる業務も増えてきました。自分の行動に責任を持ち、患者さまに安全な看護を提供する重要性を学びました。そのためには根拠ある看護を行うことが不可欠で、研修に参加したり、不明点を先輩に問いたり自己学習することで知識を深めるよう努めています。しかし、まだ分からないことも沢山あり、学習が足りていないと感じています。

一年間私が一番心がけていたことは、忙しくても患者家族に対し人として尊重した関わりをすることです。信頼される看護師になれるよう、言葉遣い・表情など気を付けながら接する中、患者家族より看護の姿勢を褒めて頂いたことが私の自信になりました。今後もこの姿勢は崩さず、理想の看護師像を目指していこうと思ひます。



熊本地震における市立宇和島病院DMAT活動報告

市立宇和島病院 DMAT 根津 賢司

平成28年4月14日21時26分に熊本県益城町を震源とする最大震度7(マグニチュード6.5)の前震、そして同16日1時25分に最大震度7(マグニチュード7.3)の本震が発生しました。多数の住宅や建物の倒壊、阿蘇大橋の崩落、熊本城一部倒壊など甚大な被害が報告される中、全国のDMATに待機および要請がかかり、当院DMATも4月19日出動要請があり、同日19:30に院内で出発式をしていただき、20:00当院を出発しました。当院のDMATは現在13名(医師2名、看護師7名、業務調整員4名)で構成されていますが、今回の熊本派遣はそのうちの4名(医師1名、看護師2名、業務調整員1名)で出動しました。

八幡浜港よりフェリーで大分県臼杵に渡り、翌4月20日、災害活動拠点本部である熊本阿蘇医療センターに向かいました。大分から阿蘇にかけて移動途中、すれ違う車両は自衛隊車両ばかりとなり、さらに阿蘇市内に入るとコンビニも閉店し、地元ボランティアの方々がいろいろな物資を支給している姿をみて、より緊張感が走りました。阿蘇医療センターに到着後、DMAT受付を行い、本部長より当院DMATは本部活動、本部受付を命ぜられました。

われわれの主な役割は、全国から当本部に参集された37隊のDMAT受付およびその管理(役割分担、配置、状況把握)という重要な責務を担当することとなりました。具体的には受付の段階から各DMATの特色を把握しながら、その特色に適した形で以下の役割を分担配置しました。

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1. 阿蘇医療センター内のERおよび一般診療の支援 | 4. 避難所への巡回、診療、状態把握 |
| 2. 阿蘇医療センター内検査技師、放射線技師の支援 | 5. 阿蘇医療センターから他病院、他施設への転院搬送 |
| 3. 近隣病院への診療応援と当直業務体制の確立 | 6. 日赤チーム、自衛隊、行政、保健所などとの連携 |

4月20日は悪戦苦闘しながらも、お互い徐々に本部活動の流れを掌握することもできるようになりました。夜中まで翌日のDMAT編成準備を整え、活動1日目を終了しました。

4月21日は早朝より暴風雨でした。新たな道路の封鎖情報、新たな危険区域の情報などが入ったり、暴風雨による二次災害の不安から一気に避難所が前日想定約2倍に増加したり、近隣病院の倒壊の恐れから病院避難の援助依頼など、想定外の状況対応に朝から一気に慌ただしく始まりました。実災害は経時的にどのような動きをするかわからないということを痛感させられました。そんな中でも動揺することなく、冷静に指示を出し、統括されていた本部長の懐の大きさに関心していました。本部長は国際協力機構国際緊急援助隊医療チームにも所属されていて、これまでフィリピン沖地震などの海外派遣も経験のある先生で、夜遅くまで翌日の準備をしつつ、これまでの苦労話をお聴きすることができ、私にとっては本当にpricelessな時間でした。

4月22日は活動最終日で、DMATの活動から医療救護班、行政、保健所の介入へのスムーズな移行、引き継ぎが主な任務でした。災害活動拠点本部である阿蘇医療センターの甲斐豊先生は御自身も被災者の一人でありながらも、阿蘇地域の砦として熱い気持ちで頑張られていた人間的にもとても素晴らしい先生で、撤収前にみんなと熱く握手をして本部を去りました。

今回、実は参集前には避難所での診療活動などをシミュレーションしていました。突然の本部活動に、そしてその重責に最初はとまどいとプレッシャーに押し潰されそうでしたが、やはり【ひとりではなくチーム】が支えになり、宇和島DMATならではの細やかな気配りや丁寧な仕事を後に本部長や院長より讃えられた際には本当に嬉しく感じました。今回、当院DMATで災害活動拠点本部で活動できたことは、災害全体の流れの把握、情報の取り方、情報に対する対応や準備、各機関との連携など本当に貴重な勉強の機会となりました。

今回の経験を活かし、今後起こるかもしれない新たな災害に備えて準備し、日々研鑽も積んでいかなければならないと感じています。一緒に現地で活動したメンバー、活動を支援していただいた皆様、活動中当院の業務を助けてくれたスタッフ、そして家族に本当に感謝しています。

最後になりましたが、地震発生から約3ヶ月が過ぎても、まだまだ避難生活を続けておられる方、復興に向けて頑張っている方々がたくさんいらっしゃいます。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地域のより早い復興を祈念いたします。

〈DMAT隊出発式の様子〉



左から根津医師、佐野看護師、富永看護師、清家薬剤師

患者さまの権利

1. 良質で適切な医療を平等に受けることができます。
2. 自分の状態や医療行為について十分理解できるまで説明を受けることができます。
3. 医療者から十分理解できるまで説明を受けた上で、自由意志に基づき医療行為を選択あるいは断ることができます。
4. 主治医より受けた診断、治療方針について他の専門家に意見を求めたい場合は、セカンドオピニオンを利用することができます。
5. 自分の医療に関する記録などの情報について、開示を求めることができます。
6. 個人情報及びプライバシーは保護され、いかなる状況においても人間としての尊厳が守られます。
7. 患者さまの診療・治療について当院の教育・研究にご協力をお願いする場合がありますが、これを断ることができます。
8. 病院に対し種々の提言をすることができます。



形成外科

形成外科科長 野澤 竜太



形成外科野澤科長(左)、皮膚科薬師寺科長(右)

形成外科(けいせいけいけか)は、平成28年4月に新設されました。以前より皮膚科の一部門として診療を行っており、今後も連携していく予定です。

皮膚科全般は薬師寺先生が担当しています。形成外科で主に診察させていただいているのは、皮膚腫瘍(ひふしゅよう)と熱傷(ねつしょう)です。

皮膚腫瘍には、良性と悪性があります。ほくろやいぼなど、良性のものを切除することもありますが、悪性はいわゆる皮膚癌(がん)のことです。切除したものを検査して診断が確定します。

治療は主に手術ですが、ぬりぐすりや、ガーゼ交換、液体窒素による冷凍凝固法、レーザー治療(ほくろ)などもあ



趣味の切り絵

ります。大きさ、部位、検査の結果によって治療の方法は異なりますので、診察した上で、詳しく説明させていただきます。

熱傷(ねつしょう)は、お湯や火でけがをする「やけど」のことです。

やけどの治療も、ぬりぐすり、ガーゼ交換などを行います。

大やけどの場合には、長期入院し、全身の治療や皮膚移植などの手術が必要になることもありますので、十分注意してください。

その他、切りぎすなど、皮膚のきずに関する診察をしています。

今後とも形成外科をよろしくお願ひします。

夏バテ予防
レシピ

トマトの冷製パスタ

トマトにはクエン酸が多く含まれています。クエン酸は疲労物質である乳酸の発生を抑え、胃液の分泌を促して食欲増進をするため、夏バテ防止に効果的です。

[材料 1人分]

- スパゲティ……………80g
- トマト……………80g
- A { ●水……………200ml
- 固形コンソメ…… 1/2個
- B { ●オリーブオイル…小さじ2
- 塩……………少々
- グリーンアスパラガス…20g
- シーチキン……………10g

① トマトを1cm角に切る。アスパラは根元の皮を剥き、斜め薄切りにする。

② 耐熱容器にAを入れ、ラップをかけて電子レンジ(600W)で一分間加熱して粗熱をとる。これに①のトマト、Bを混ぜ合わせて冷やしておく。

③ 鍋にたっぷりの湯を沸かし、スパゲッティを表示時間通りに茹で、アスパラを加えてさらに一分茹でる。ザルにあげ、すぐに冷水につけて冷ます。

④ ボウルに水気を切った③を入れ、②のトマトソースを加えてあえる。器に盛りシーチキンを添える。

〈栄養量〉エネルギー:444kcal たんぱく質:12.7g 塩分:1.2g

平成28年8・9月糖尿病教室予定表

日程	演 題	担当医師	医療スタッフの講義	担当部署
8月 5日(金)	糖尿病と医療連携	井上MSW	見直してみませんか?あなたの検査値	臨床検査科
8月19日(金)	自分の糖尿病を把握しよう	内科 宮崎万純先生	糖尿病に薬(ヤク)だつ話	薬 局
8月26日(金)	最近の話題	内科 宮内先生	糖尿病食は健康食	食 養 科
9月 2日(金)	糖尿病と骨粗鬆症	整形外科の先生	合併症が出てしまった時の食事	看 護 部
9月 9日(金)	糖尿病のことを知ろう	研修医の先生	共に学ぼう、糖尿病	食 養 科
9月16日(金)	糖尿病の余病を見落とさないために	研修医の先生	お散歩から始めましょう	リハビリ

■時間:午後2時より3時まで

■場所:北棟(1階)多目的栄養相談室

※講義内容は変更になることもあります。

※血糖値測定(無料)は毎回行います。(午後1時30分頃から2時まで)

▼詳しくは、食養科までお尋ね下さい。

問い合わせ先 **0895-25-1111(内線20010)**
市立宇和島病院 食養科

◎糖尿病患者会(パール会)

開催時間:午後3時から3時30分まで

8月26日の担当:臨床検査科/9月16日の担当:薬局

※糖尿病療養指導士のスタッフが担当いたします。

発行/市立宇和島病院広報委員会
住所/〒798-8510 宇和島市御殿町1-1
TEL/0895-25-1111 FAX/0895-25-5334